

特集

人間社会学部教員のコロナ禍下における研究活動

2020年1月頃から始まった世界的な新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大は、大学教員の教育活動のみならず研究活動にも大きな影響を与えた。大学への通勤や学会出張などの移動が減少・消失したためにまとまった研究時間が確保できた、オンライン会合が一般化したおかげで移動制約のために会えなかった人たちと意見交換できるようになったなど、プラスの効果もあった一方、学会での意見交換ができなくなった、資料閲覧に制約が生じた、フィールドワークができなくなったなど、マイナスの影響もあった。影響の大きさは研究分野や研究スタイルにも大きく依存しているようである。人間社会学部の有志の先生方から提出された原稿をもとに、新型コロナウイルス（COVID-19）は研究者にどのような影響を与え、研究者は何を考え、どのような工夫で乗り切っているのかを垣間見てみたい。